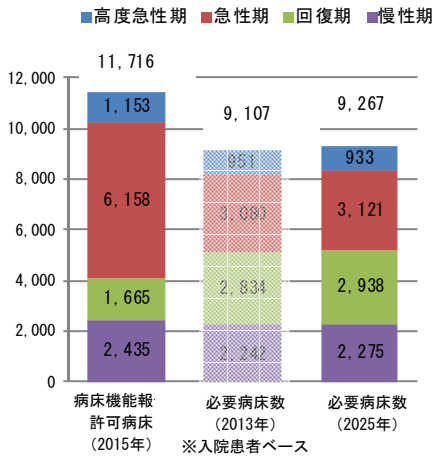


地域医療構想(素案)の概要について

- 団塊の世代が75才以上の後期高齢者となり、医療や介護に大きなニーズが見込まれる2025年を見据えて、平成26年6月に「医療介護総合確保推進法」が成立。
- 都道府県は、将来の医療需要と必要病床数を示すとともに、目指すべき医療提供体制を実現するための施策を内容とする「地域医療構想」を策定することとなった。
- 構想策定後は、構想区域ごとに地域医療構想調整会議を設け、関係者間の連携をしながら、構想の達成を推進するために必要な協議を行い構想の実現に向けた取組みを進める。

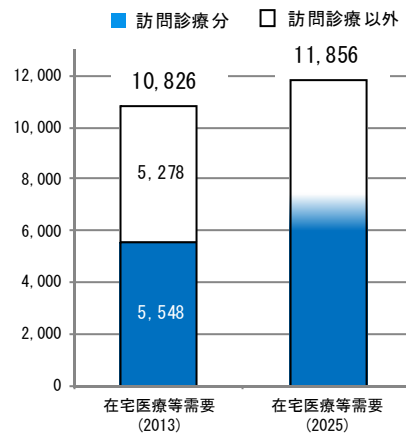
1 本県における地域医療構想

① 病床の必要量 (単位: 床)



※「病床機能報告」の内訳については、「休棟等」があるため合計と一致しない。

② 在宅医療等需要 (単位: 人/日)



※2025年については、在宅医療等の受入体制の状況により内訳が変化するため全体数のみを明示

現状と課題

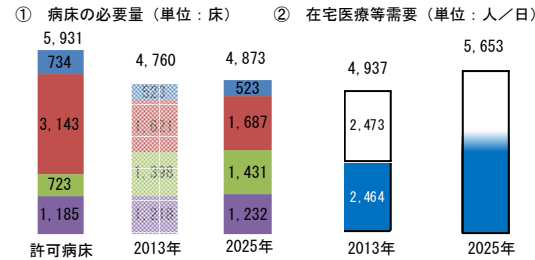
- 急性期病床が過剰、回復期病床が不足している。
- 非稼働病床や稼働率が低い病床、在宅療養が可能な患者の入院が見られる。
- 後期高齢者人口の増加に伴う在宅医療等需要の増加に対し受入体制が不十分である。
- 訪問看護や看取りなど在宅医療に対する県民の理解が不足している。
- 県内の医師、歯科医師、薬剤師、看護職員等が不足している。

課題解決のための施策

- ① 病床機能の分化・連携**
 - ・急性期病床から回復期病床等への機能転換
 - ・専門性や難易度が高い治療の集約化と広域連携による病床規模の適正化
- ② 在宅医療の拡充**
 - ・自宅以外でも医療・介護が受けられる居住環境の整備や生活支援サービスの充実
 - ・医療・介護従事者、住民などへの在宅医療に対する普及啓発
 - ・市町村等の取組支援による在宅医療と介護の連携体制の構築
- ③ 人材の確保・育成**
 - ・山形方式・医師及び看護師等生涯サポートプログラムに基づく人材確保・育成
 - ・山大と連携した新たな専門医制度への対応

2 構想区域における地域医療構想 (第6次山形県保健医療計画における二次保健医療圏)

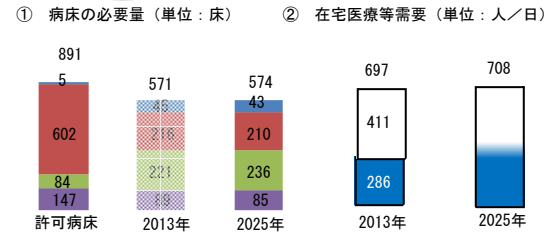
村山構想区域



【主な課題と施策】

- 西村山・北村山地域の公立病院が老朽化し建替時期が迫っていることから、各公立病院に必要な診療機能の重点化と病床機能間の連携を促す。
- 在宅医療等需要が大幅に増加することから、在宅医療に取り組む医療・介護事業所を拡大する。

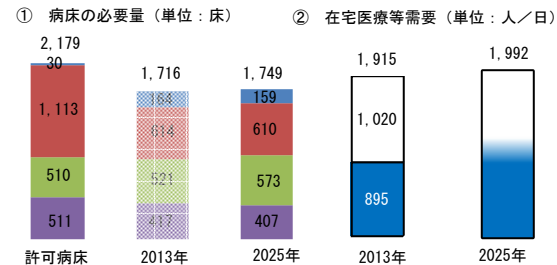
最上構想区域



【主な課題と施策】

- 基幹病院である県立新庄病院が老朽化していることから、改築整備に向け診療機能を重点化する。
- 地域全体をカバーする訪問看護体制が未整備であることから、病院と訪問看護師との連携促進により体制を強化する。

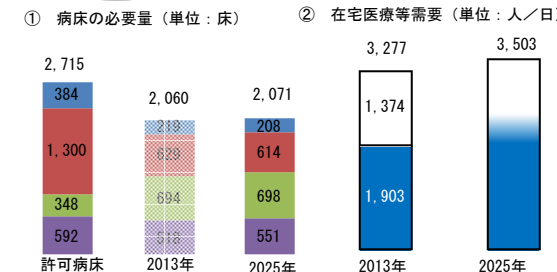
置賜構想区域



【主な課題と施策】

- 施設の老朽化により建替時期が迫っている病院が多いことから、地域に必要な診療機能の重点化と病床機能間の連携を促す。
- 訪問看護事業所の多くが小規模であることから、サービス提供体制の充実に向けた支援を実施する。

庄内構想区域



【主な課題と施策】

- 基幹病院において入院患者が減少していることから、地域医療連携推進法人の活用を含めた病院等の病床機能間の連携を促す。
- 在宅医療等需要が増加することから、地域医療情報ネットワークでの連携を通し、在宅医療に取り組む医療・介護事業所を拡大する。